

咀嚼機能制御補綴学特論（木本克彦）

Advanced Course of Prosthodontics and Oral Rehabilitation (Katsuhiko Kimoto)

キーワード

- ① 補綴臨床疫学
- ② 歯科補綴治療
- ③ インプラント再生治療
- ④ デジタル・デンティストリー
- ⑤ 咀嚼と高次脳機能

授業概要

歯の形態異常や実質欠損あるいは喪失によって引き起こされる咀嚼機能障害に対して、人工ならびに生体材料によって口腔の形態および機能と外観を回復し、顎口腔系の健康維持を図るための補綴治療および予防法について講義する。本講義では、咀嚼機能を制御するクラウン・ブリッジ・インプラント・義歯などの補綴治療の術式やそれに関わる新規材料の選択、さらには咬合咀嚼刺激による全身疾患と高次脳機能の関連について紹介する。

授業科目の学修目標

咀嚼機能制御補綴学は、失われた顎口腔機能を回復し、健康に過ごすための予防医療の構築までを包括する学問であり、本科目では先進補綴治療とEvidence based Dentistry (EBD)を実践する上での必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 補綴臨床疫学 5コマ 木本克彦
- ② アドバンス・クラウン・ブリッジ補綴学 5コマ 木本克彦
- ③ 特殊義歯補綴学 5コマ 木本克彦
- ④ インプラント再生治療学 5コマ 木本克彦
- ⑤ デジタルデンティストリー 5コマ 木本克彦
- ⑥ 咀嚼と高次脳機能 5コマ 木本克彦

教科書および参考書

咀嚼機能補綴学特論 配布プリント

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

咀嚼機能制御補綴学特論では授業項目とそれに関連する最新の学術論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し補綴的研究計画の立案ができる。
- ② 最新のクラウン・ブリッジ補綴治療の理論を理解する。
- ③ 特殊な義歯治療の理論を理解する。
- ④ インプラント治療とそれに伴う再生医療の理論を理解する。
- ⑤ 最新デジタル歯科治療を理解する。
- ⑥ 咀嚼と認知機能・ストレスとの関連性を理解する。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
10%	0%	60%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回10%
- ・レポートは、授業計画の6項目について課題を提出する。10%×6回=60%
- ・口頭試問は、授業計画の6項目についてプロダクト達成度を判定する。5%×6回=30%

理想的な達成レベルの目安

咀嚼機能制御補綴学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。